

04

April
2025

[月刊] キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年4月1日発行(毎月一回1日発行)第808号



出会い・本・人

本と私、父、そして息子 高瀬一使徒

特集シリーズこの三冊!

子どもと祈るなら、この三冊! 小林よう子

本・批評と紹介

片柳弘史著 悲しみの向こう 横田南嶺

シュペーナー著/山下和也訳 新しい人間 齋藤 篤

大頭真一著 時が満ちて 宮崎 誉

大阪ケズイック・コンベンション60年記念誌編集委員会編 感謝・継承 鎌野善三

相賀 昇著 私たちのゲツセマネ 本多峰子

◆バックナンバー表

◆既刊案内

◆書店案内

静寂者ジャンヌ

生き延びるための瞑想

山本賢蔵著

(やまと・けんどう氏は元NHK外信部記者)

3月24日

ルイ十四世の時代を生きた一人の女性の生涯と思想に迫る。彼女は

「異端の女性神秘家」として闇に葬り去られてきたが、その生涯は、男性支配のミソジニー社会の中で自己を貫き通した鮮烈な抵抗だった。日本で初となるギュイヨン夫人の本格評伝。柳田邦男氏推薦。

四六判・定価3300円



ユーモア入門

人生を楽しむ7法則

宮平望著

(みやひら・のぞむ氏は西南学院大学教授)

2月21日

神学者バルトの標語は「力強く、落ち着いて、ユーモアをもって」だった。ではユーモアとは何か？ 聖書から落語まで古今東西のジョークを参看し、その多様な形と本質を探る。読みながらつい頬が緩むこと請け合い。

A5判・定価2310円



戦後日本とキリスト教

2月14日

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで 戦後の原点を問う

富坂キリスト教センター編

敗戦後の急激な社会変革にキリスト教

界はどう対応したのか。占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育などに着目。寄稿者：大久保正樹、落合建仁、寒河江健、李相勲、福山裕紀子、渡邊さゆり、原誠、戒能信生

四六判・定価2200円



倫理

DBW版新訳

キリスト教倫理の可能性！

デイトリヒ・ボンヘッファー著／宮田光雄監訳

大反響

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、ナチによる逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。新版全集第6巻（DBW6）は奇跡的に亡失を免れた草稿を徹底的に校訂し膨大な脚注を付して成立順に再構成。待望の完訳。四六判・定価6930円



平和の福音に生きる 教会の宣言

2月21日

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎〔共著〕

改革派教会は2023年の大会で「平和宣言」を採択した。この宣言は、教会がこの世に対して果たすべき責任を「平和をつくる」という視点から積極的に展開する。教会における学びの素材とされることを願って、本文と共に懇切な解説を施した。

◆小B6判・定価990円

ロゴセラピー

人間への限りない畏敬に
基づく心理療法

◆A5判・定価3300円

E・ルーカス著／草野・徳永訳

「生きる意味」の発見を支えることによつて心の病の治癒に取り組む。その基礎概念から実践技法まで、懇切に解説。牧会者必読！

本と私、父、そして息子

高瀬一使徒



私は、決して読書家ではないし本が好きかどうか問われると、「好き」と即答できる自信もない。そんな私がこのコラムを書くのは不遜の極みと思っている。

私の幼少期から青年期はテレビ全盛の時代であった。娯楽だけでなく知識や情報は殆どテレビから吸収していた。そんな私を見て読書家だった父は、「本を読みなさい」とよく声をかけてくれたが、馬耳東風の態度であった。大学は消去法で文学部に落ち着いたが、専攻は一番楽に思えた日本近代文学を選択した。当然課題として夏目漱石、森鷗外、川端康成、芥川龍之介、太宰治等を読まざるをえなかったが、誰かに陶醉することはなかった。その後受洗して三浦綾子の作品や信仰書を熱心に読んだ時期はあったが、本が好きという境地に至ったとは思えない。読書スタイルとしては多読より精読が好きで同じ作品や場面を何度も読み返した。今でも遠い昔読んだ本を読み返し新たな発見をしたりして心の潤いになっている。そして若いころに少しだけだが本を読んでおいて良かったとも思っている。

両親が他界し実家を整理していると父の読んだ大量の本が倉庫や押入れから出てきた。小説から俳句、趣味の本から実用書、信仰書から他宗教の本と実にバラエティーに富んでいる。父は児童養護施設を出た後は開拓農民として土と向きあった人生だったが、本を読むことで生活に潤いを与えていたのだろうと想像する。

現代はネットの時代だ。私の子どもたちもSNSやYouTubeを視聴することに時間を費やし、本を読んでいる姿を見かけたことがない。ネットは、AIにより読者を多様な分野や視点の意見を聞くことから遠ざける危険性がある。また情報をいち早く得ることはできるが、文学作品のように後々読者の心が潤うような体験を与えてはくれない。そんな大学生の息子が心配になり「本を読みなさい」と父からの受け売り言葉で論すが、その言葉に馬耳東風だった若かりし日の我を思い出し内心苦笑している。

(たかせ・かずしと＝児童養護施設さんあい理事長(前園長))



▼シリーズ この三冊！

子どもと祈るなら、この三冊！

小林よう子

(こばやし・ようこ…八戸小中野幼稚園園長、八戸小中野教会牧師)

わたしは、牧師として遣わされた教会が長く大事にしてきた幼稚園の働きにも、園長として関わっている。キリスト教保育を行っている園では、毎日の生活の中に必ず「お祈り」がある。保育が始まる前の朝の打ち合わせで、一日のスタートの祈り。子どもたちとの礼拝での祈り。給食をいただく前の食前の感謝の祈り。園での特別な日、特別な行事での祈り……。

教会の礼拝や祈祷会でのお祈りと違うのは、祈る人が必ずしもクリスチャ

ンではないということ。祈る場が幼稚園であること。そして、子どもと祈る、子どもが祈る、子どものために祈るという、子どもを頭においての祈りであることだ。

教会での祈りや、クリスチャンが祈ることについての本は、以前からさまざまあるけれど、こういうある意味特殊な、子どもに関わる祈りについての本は、あまり目にしたことがない。けれどもキリスト教保育の現場では、結構みんな頭を悩ませているのではない

だろうか。

だから『保育者の祈り——こどものために、こどもとともに』が出た時には、すぐに手に入れたと思った。そして、読んでみて、とてもうれしくなった。帯にも「えっ、こんなことも祈っていいの？ こんなふうに祈ってもいいの？」とあるとおり、キリスト教信仰を持っているわけではない保育者たちが、祈りに対して持つているハードルを下げてくれる本なのだ。

新卒はもちろん、保育の経験者であろうと、初めてキリスト教保育の場で働くことになった人たちにとって、「お祈り」は難関の一つに違いない。キリスト教をよく知らないのに、自分が当事者として神に祈らなければならぬ、というだけでも十分悩ましい。それを、子どもたちの前で、自分の言葉で口にしなければいけないのだ。

だから、最初の数ヶ月、お祈りは免

除される。そしてその間に、わたしが
お祈りについて基本的なことを伝える
時間を持つ。お祈りは神との対話であ
ること、最初に呼びかけがあり、内容
があり、締めくくりの言葉があり、最
後にみんなで「アーメン」と言うこと。
お祈りの内容にはさまざまあって、お
願いばかりではないことなど。その上
で代々大事にされてきたのが、先輩た
ちのお祈りをよく聞いて学ぶことだと
伝える。

けれども、きちんと整った言葉でな
ければいけないのだろうか、とか、い
ろいろなことに目配りして配慮しなけ
ればいけないのではないかと、負の
イメージがあることは言っではいけな
いのではないか、というようなことが
どうしても気になってしまっただろう。

わたしたちは、いつも冷静に全てを
配慮できるわけではないし、心が安定
しているわけでもなく、気持ち混乱

していることもある。毎日が小さな事
件であふれている保育の現場で、いつ
もお行儀の良い、完璧な祈りなどとて
も無理なのだ。でも、実はそれでも大
丈夫と言えることこそが「お祈り」だ
とも言える。神との対話なのだから、
わたしたちの全てをご存じの方に向
かって、わたしたちはなんでも言っ
ていいのだ。

この本は、そのことを見事に具体的
に教えてくれる。大きくは「こどもと
祈る」「わたしが祈る」に分かれてい
る。「こどもと祈る」には「行事の祈
り」「この子のために祈る」「誰かのた
めに祈る」とあって、それぞれ実際の
お祈りがいくつも掲載されている。
「お祈りは神さまにお話しすること」
だというのは、良いことばかりでなく、
心配なこと、困っていること、モヤモ
ヤした気持ち、誰にも言えないことな
ど、自分の本心を素直に言っ
ていいの

だということが伝わってくる。

園の礼拝では、その時の子どもたち
の気持ちを、教師が代弁するように
「今わたしたちは」と祈ることが多く
ある。そんなお祈りもあれば、子ども
自身の祈りもある。子どもたちが直接
神さまに祈れるようになるために、
「こんなふうに言っ
ていいんだよ」「こ
ういうお祈りもあるよ」と伝えること
ができる。

また、後半の「わたしが祈る」には
「悩んで眠れないとき」など、保育者
が自分で祈る祈りがたくさん収められ
ている。多くは人前で祈るものではな
く、一人で神と向き合い、自分と向き
合う祈りだ。今まで神や信仰について
考えたことがなかった保育者にも、
「神と対話する」とはどういうことな
のか、神とはどのような方なのかを考
えさせてくれるお祈りが載せられてい
て、うれしくなる。

悩みやスッキリしない気持ちも、口に出して誰かに話せば、それだけで気持ちが落ち着くことがある。神もそのようにわたしたちの気持ちを聞いてくださる。また、神が聞いてくださると信じて祈る時、自分の祈りは神にどのようなに聞かれるだろうかとか心が動く。それだけで、わたしたちは自分のことを客観的に見られるようになり、一人で考えているだけでは気づかなかったことに目が向けられるようになるのだ。

「苦手な同僚がいます」など、現実の園で起こるさまざまな問題や悩みが、具体的に取上げられているので、中にはどきつとさせられることもあるだろう。だからこそ、保育者が「祈る」ことに對して自由に解き放たれていくきっかけになるのではないかと思う。

*

子どもと祈るだけでなく、子どもにも自分で祈れるようになってほしいと

わたしたちは願う。けれども、これがまたなかなか難しい。子どもたちは、教師から教わった祈りを覚えて祈れるようになることから始める。ところが、最初に覚えた基本の形から応用することがとても大変なのだ。そして、教師の方も、どうやってお祈りの内容を広げていけばいいのか、とつさにアドバイスできず、戸惑ってしまう。そんな時に、わたしたちの園で、昔から重宝してきた小さなお祈りの本がある。

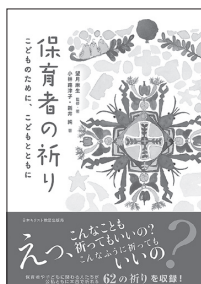
『いちにちのいのり』『おしょくじのいのり』『かんしゃのいのり』『おやすみまえのいのり』だ。かなりボロボロになってきているけれど、それほど必要とされて読まれてきたということでもある。内容はいいのだが、「良い子でいたい」という空気が底に流れているのが、ちょっと気になる。そういう感覚が「少し古いかな」とわたしには感じられる。でも、たとえば「食前の感謝の

祈り」では、どのようなことを祈ればいいのか、いろいろなことが書かれているのでヒントにすることができ。本にある言葉の中の一つを祈れたら、子どもにとっては十分なのだから。

小さな手のひらの形で、丈夫なボール紙で製本され、大勢の子どもたちの手に渡っても傷みにくい造りになっている。刷りを重ねて現在もなお手に入るといことは、きつとあちこちで用いられているからなのだろう。

*

さて、子どもだけの礼拝でなく、大人たちも混じった礼拝の中で「子どもと祈る」ことが意識されていくといいなあとわたしは願っている。さまざまな人が共に集うのが本来の礼拝のあり方だ。少しでも子どもの声が聞こえ、子どもの存在が礼拝全体の中でわかちあえる工夫ができるといい。そして、礼拝に集うみんなが「子どもと祈る」



『保育者の祈り—こども のために、こどもとともに』

望月麻生：監著
小林路津子、新井純：著
日本キリスト教団出版局
2023 年刊
B6 判 96 頁
1,320 円

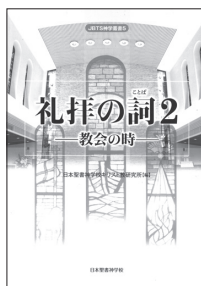
ことができたらずばらしい。
そんな時のヒントになる祈りが『**礼拝の詞2——教会の時**』にある。この本は、さまざまな礼拝のための資料集。「こどもの日」（花の日）、「平和聖日」、「聖徒の日」、「収穫感謝日」など教会暦の中で特定の目的や性格をもった礼拝で、子どもと祈るリタニーが提案されている。



こどものいのりシリーズ 『いちにちのいのり』

アラン・パリー&リンダ・
パリー：絵・文
ドン・ボスコ社
1996 年刊
153×132mm 12 頁
418 円

その各礼拝での招詞や祈り、派遣と祝福の言葉などがいくつも掲載されている。子どもが自分たちの声で祈り、大人が祈り、みんなで祈る、そんなさまざまな声が交わり、聞こえるリタニーが作られている。それも、開式の時、罪の告白、奉獻で、と多様な場面で用いる提案がなされている。他に、子どもと共にいることを言い



ことば 『礼拝の詞2 ——教会の時』

日本聖書神学校キリスト
教研究所：編
日本聖書神学校
2015 年刊
A5 判 112 頁
1,320 円

表した司式者のための「開式の祈り」「罪の告白」「とりなしの祈り」などの例もあり、子どもと共にする礼拝の案も提示されている。
このような試みがなされていくと、子どもと祈ることが、幼児施設だけで行われる特別なものでなくなっていくだろう。そして、それが神の御心になうことではないかとわたしは思う。

悲しみの向こうにあるもの

〈評者〉横田南嶺



悲しみの向こう

希望の扉を開く言葉 366

片柳弘史著



『悲しみの向こう——希望の扉を開く言葉366』の著者、片柳弘史神父とは、PHP研究所の企画で、何度か対談をさせてもらっています。温厚なお人柄で、キリスト教と仏教という宗教の違いを超えて親しくさせてもらっていて、また尊敬申し上げます。本書の書評を書くよう依頼されて、書斎にはいつもこの『悲しみの向こう』を置いて、折に触れては開いていました。この本を開くとなぜかホッとします。表紙を見るだけでも落ち着きを取り戻します。どうしてだろうかと考えてみると、人は誰しも悲しみをいだいて生きているからだと思うのであります。

思えば仏教を開いたお釈迦様は、お生まれになって数日で実の母を亡くしています。自分の命は、母の命と引き換えに賜ったのだという深い悲しみが、お釈迦様の教えの根底に流れています。「人生は、苦である」とは仏教の教義

の根本ではありますが、「人生は悲しみである」といってもよいかと思っています。

数年前に、石川県かほく市にある西田幾多郎記念哲学館で講演を頼まれて、哲学館を訪れたことがありました。記念館に入っただけで、「哲学の動機は『驚き』ではなくして、深い人生の悲哀でなければならない」という一文が掲げられてあって、感動しました。西田幾多郎にとつての人生の悲哀とは何だったのでありましょうか。十三歳で体験する姉の死をはじめに、弟の戦死、そして五人の子供を亡くしたことでありましょう。深淵なる哲学は、この深い悲しみから生まれているのであります。

仏教詩人と呼ばれる坂村真民先生に「かなしみはいつも」という詩があります。その詩の中に「かなしみはみんな書いてはならない かなしみは みんな話してはなら

ない かなしみは わたしたちを強くする根 かなしみは
わたしたちを支えている幹 かなしみは わたしたちを美
しくする花」という言葉があります。悲しみこそが私たち
の人生を根底から支えてくれるものなのであります。です
から真民は「かなしみは いつも枯らしてはならない」と
詠いました。悲しみをかみしめて一歩一歩歩いて行くのが
お互いの人生であります。

さて悲しみの向こうにあるのはいったい何でありましょ
うか。高見順は「葡萄に種子があるように 私の胸に悲し
みがある 青い葡萄が酒に成るように 私の胸の悲しみよ
喜びに成れ」と詠いました。悲しみはやがて人生の喜びへ
と熟成されるのでしょうか。それまでには幾多の苦難を経
なければならぬのでしょうか。苦難にくじけてしまつてはど

うなりましようか。苦難を支えてくれるのは、やはり人の
支えでありましよう。よき書物の言葉でもありましよう。
そしてそれらを通して人は、キリスト教の言葉で言えば
「神の愛」を感じることがのできるものでありましよう。仏教
で申し上げれば「仏の慈悲」にほかなりません。
本書を手にとつて読んでみると、どの文章も短いながら
も片柳神父の深い愛が感じられます。そして神の愛にいだ
かれてゐるのだという安心を得ることができます。

(よこた・なんれい 臨済宗円覚寺派管長
(文庫判・三九〇頁・定価九九〇円・教文館)

VTJ 旧約聖書注解

山我哲雄

列王記上17章 列王記下2章



日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ。預
言者エリヤについての長大な物語を扱う。
テクストの根幹となる伝承やそこに加えら
れた編集を丁寧に考察。

A5判上製・450頁・定価7700円

説教黙想アレテア叢書

日本キリスト教団出版局 編

創世記 1-28章



『説教黙想アレテア』誌で連載され
た、創世記の重要単元の説教黙想を書
籍化。上巻は全体の序論、天地創造か
らヤコブ物語の「ベテルの夢」まで収録。

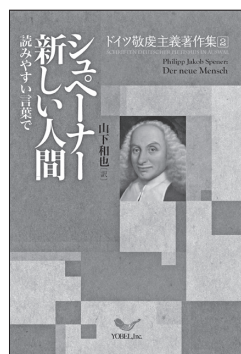
A5判並製・264頁・定価3520円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eligyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
<https://bp-uccj.jp>

再生者の根源にある 「神の似像」を挿出

〈評者〉 齋藤 篤



ドイツ敬虔主義著作集②

新しい人間

読みやすい言葉で

シュペーナール著

山下和也訳



以前、ドイツ敬虔主義について会話をしていたところ、ある友人牧師が「敬虔主義は流行らないよね」と言っていたのを思い出しました。その友人がどのような意図をもってそのような発言をしたのかは分かりませんが、いわゆる「敬虔」という言葉に引く掛かりを覚えるといった内容の会話のなかで、そのような発言があったように記憶していません。

実際、日本において「敬虔なクリスチャン」という代名詞を聞けば、清く・正しく・美しいといった言葉がセットとなって人々の印象に映るかもしれませんが、ややもすれば窮屈に感じてしまうのが、敬虔という言葉に対するイメージなのかもしれません。

そのことを踏まえて考えれば、今般ヨベル社から続々と出版されている『ドイツ敬虔主義著作集』は、実に挑戦的

であり、かつ魅力的な試みに他ならないと思うのは私だけでしょか。この試みは、流行らないと思われがちな敬虔主義の原点にあえて眼を向け、その本質をあぶり出すことで、将来を展望するキリスト教に対して大きな刺激になること間違いなしと、私は思わずにはいられないのです。

さて、昨年十月に出版された著作集の第二巻は、「ドイツ敬虔主義の父」と言われる、フィリップ・ヤーコプ・シュペーナールによる著作である『新しい人間―読みやすい言葉で』（原著・Der neue Mensch In leicht lesbaren herausgegeben）です。

シュペーナールがドイツ敬虔主義の祖であることは教会史を読めば自明なことですし、彼の功績については、さわりの部分はよく知られていることですが、恥ずかしながら、私は彼の著作に触れたことはありませんでした。それ

だけに本著が出版されたことで、シュペーナーという人物が何を想い、何を目指していたかについて、その息づかいというものを感じ取ることができたのは、まことに大きな収穫でした。

副題の「読みやすい言葉で」は、著者であるシュペーナー本人はそのようなことを目指して著したのかもしれないが、私の読解力の問題でありながらも、それは決して読みやすいとは言いがたいものであると感じました。しかし、この著作の翻訳を担当された山下和也氏は、非常に丁寧な脚注と訳注をもつて解説されており、題名通りの読みやすさを読者に提供しています。氏の労作に心からの敬意を表します。

本著の中心にあるテーマは「神によって新しくされた者

としての『再生者』としてのあり方」であると私は受け止めました。何かに束縛されて信仰生活を営まなければならないということが敬虔の意味するところではなく、あくまで神の愛がイエス・キリストを通して、そして聖霊の導きによって私自身に働くときに、私自身が「神の似像」として再生されることで湧出される喜びこそ、再生者の根源にあるということ、聖書の言葉から純粹に語られている。ここにこそ、敬虔主義の本質というものがあるのだ。そんなシュペーナーの声を聴くことができたのです。

(さいとう・あつし) 日本基督教団仙台宮城野教会牧師、同東北教区センター・エマオ主事

(四六判・四〇〇頁・定価三〇八〇円・ヨベル)

ヨベルの**新刊・重版案内**

大頭真一
日本イエス・キリスト教団京都信愛教会／明野キリスト教会牧師

時が満ちて
マルコの福音書Ⅰ
新書判・二二四頁
一四三〇円

寄り添いの福音の語らひ。

「わかる」教えには誰も驚かない。人々はイエスの教えに「驚嘆した」という。なぜ驚嘆したのか。なぜそれが「福音」と呼ばれたのか。現代人の心にもその驚異を再現することはできるであろうか。――焚き火パスター・オオズの飽くなき挑戦は舞台を新約聖書に移していいよ爆ぜ、燃え広がる！ **第一弾！**

鎌野善三 3刷

3分間のグッドニュース「律法」
聖書通読のためのやさしい手引書
A5判美装・二〇八頁・一七六〇円

自分を断罪し続ける信仰者はいないだろうか？ 豊かな人生への案内書。
高橋秀典 3刷

心が傷つきやすい人への福音
四六判美装・二四八頁・一六五〇円

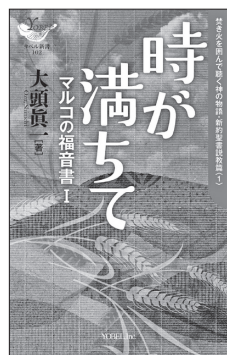
心か
傷つきやすい
人への福音
高橋秀典

3分間のグッドニュース
鎌野善三

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

福音に抱きしめられる説教集

〈評者〉 宮崎 誉



時が満ちて
マルコの福音書 I
大頭真一 著



大頭真一牧師による待望の新約聖書からの説教集の第一巻が出版されました。これまで、旧約のモーセ五書からの講解説教を、八巻に渡る書籍として出されてきましたが、新シリーズではマルコによる福音書第一章から第三章までの講解説教が収められています。絵本作家ソラさんによる文字起しで、説教の肉声が響くような読みやすい文体になっています。

大頭牧師は、英国のナザレン神学大学で学ばれ、多くの神学研究会で学ばれ、自身が主催する通称「焚き火塾」では牧師・信徒たちによる盛んな議論が繰り広げられて、福音の本質を探究してこられました。そのような研究者としての背景にもかかわらず、この説教集は平易な言葉、生活の言葉、温もりを感じる言葉でつづられています。著者あ

とがきに書かれているように、宣教地である日本では、ただ一回限りしか聖書に触れない礼拝出席者もあるからこそ、分かりやすい主題で福音を語る（219頁）。それを講解説教として釈義をベースに語っている。これは説教塾で加藤常昭牧師が指導された「講解説教を主題的に語り主イエスを紹介する説教」を体現されている姿とも言えるでしょう。

目次にある15編の説教タイトルは全て、「〇〇のお方」と、主イエスを証しする表現で統一されています。これは人格的な交流を求める信仰の姿が現れています。ウェスレアンという敬虔主義の心の信仰としても、日本におけるホーリネス運動が「お方様」と神様を人格的に信じたことも背景にあるかもしれません。そのようにして、キリストの御人格に集中しながら、旧約聖書の罪の呻き、すなわち神と人との間の破れ、人と人との破れ、人と被造物との破

れ（51頁）から、「時が満ちて」（マルコ1章15節）、キリストによる癒しが、十字架の恵みと愛によってもたらされている福音を物語っています。

特に人と被造物との破れは、この説教が2020年から2021年にかけて、そうこの時期は未曾有のコロナ危機で礼拝出席停止を強いられる苦渋の歩みの時に、物理的・身体的な断絶・破れのただなかで、キリストの福音による結びを語り続けた説教者魂に心打たれます。「みなさんイースターおめでとう。目の前には妻ひとりしかいません」。でもYouTubeで、CDでキリストの福音を聴きまじようと、温かく招き続けていく（76頁）。会堂に集えない状況、それでも礼拝か？ 主の愛が注がれていることを御言葉によって受け止めるのだから礼拝だと語られる。これは対面が回復しても、問われ続ける礼拝者の本質に関わります。

繰り返されている「抱きしめる」という表現が特徴的です。単なる情緒的な表現ではないようです。それは破れからの結び、罪の断絶からの赦し（123頁）、聖霊の臨在を父なる神の抱きしめ（18頁）と、おそらく大頭牧師にとっては和解論的救済を意味しているようにも感じます。それが溢れ出します。「主イエスの腕に抱きしめられ、主

イエスのまなざしに見つめられ：『あなたはわたしの大切な子だ』：『あなたのために何も惜しむことはしない』。イエスさまがこの私のために、自分が大嫌いだと言うこの私のために、ぐだぐだになってしまった私のために：すべてを裂かれて与えて血を流し尽くしてくださった：この愛を受け取るという、これが聖餐です：私たちはそんな風にイエスさまの胸に抱かれて初めて自分を受け入れることができる」（123～124頁）。

もし、情熱を失い冷えた信仰にもう一度、種火を受け取りたいという渇きがある人には、手にとるべき説教集なのかもしれません。また、福音を届けたい大切な友人、若者たちの心に届く、プレゼントに適している一冊かもしれません。

（みやざき・ほまれⅡ東京聖書学院準教授、日本ホーリネス教団鳩山のぞみ教会牧師）

（新書判・二三二頁・定価一四三〇円・ヨベル）

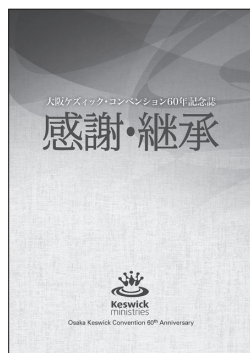
信仰の継承・変えられてゆく日々

〈評者〉 鎌野善三

1966年に始まった大阪ケズイック・コンベンションは、今年、60周年を迎えます。

主の憐れみと教派を越えた宣教協力によって、この日を迎えることができました。5年前に実行委員長の重責を担うことになった者ですが、節目の年を迎え、この記念誌を発行することができたことを、神さまと関西の諸教会の牧師・信徒の方々に心から感謝を申し上げます。

大学卒業の年、牧師であった父親に連れられて箱根小涌園で開催されていたケズイックに初めて出席しました。それから50余年、ケズイックのメッセージは私の霊的な生活を変え続けてくれました。特にあの阪神淡路大震災の年に通訳者の一人とさせていただいてから、語られるみことばは、ダイレクトに私の魂に飛び込んできました。



大阪ケズイック・コンベンション
60年記念誌
感謝・継承

大阪ケズイック・コンベンション
60年記念誌編集委員会編



皆さんに「神のことば」をお伝えするという特権と責任に身震いしました。通訳の奉仕をさせていただいた後、確かに変えられていったと実感するのです。

ケズイックのメッセージは、聖書と聖霊の働きに根差し、ていると確信をもつて言うことができます。

聖書の深い解き明かしは、聖霊によって聞く者の魂に届きます。説教者の理性的なみことば理解がその人格を築き、愛の熱情によって語られる中で聖霊がみわざを現してくださるのです。通訳者として講師の信仰を継承し、そのパッションを共有した上で奉仕させていただいたことは、私の宝となっています。

2021年と2022年は、コロナ禍のゆえにオンラインのみで集会をもたざるをえなくなったことは、本当に残念

ヨベルの新刊案内

死生学年報 2025



特集 葬送と墓制の現在

東洋英和女学院大学
死生学研究所 [編]
A5 判美装・232頁・2500円

おみとりのなかに生きる子供たち
砂田麻美

わたしのおみとり 村上浩康

「生ききる生」と「継承される生」
浮ヶ谷幸代

「島で最期を迎えたい」に寄り添う
長崎県五島列島のひとつの島を事例として

山田千香子

死別後の悲嘆プロセスにおいて
収骨が果たす役割

坂口幸弘／赤田ちづる

日本近現代墓制史に関する一考察
墓園とカロート式家墓の意味をめぐって 間芝志保

墓地開発／再開発と寺院経営
民間企業と仏教寺院の提携とその帰結 辻井敦大

ファッションが描く「死」
アレキサンダー・マックイーンのコレクション分析

岸根紗葵

岸本英夫の死生観と宗教観

宮嶋俊一

● 他、5篇

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

出版の手引き / 呈 (税込)

ケズイックのメッセーじは人を変えます。より主イエスに似た者とされるのです。この記念誌を通して、その体験が継承されることを確信しています。

(かまの・よしみ 大阪ケズイック・コンベンション実行委員長／日本イエスキリスト教団 西宮聖愛教会)

(四六判・一八四頁・定価一六五〇円・ヨベル)

念でした。もちろん、その中でも主は大きな恵みを与えてくださいました。しかし、一つの会場で賛美をし、共に祈り、直接に神のことばを聞くなかで、肉眼では見えないキリストが共におられるという「主の臨在の現実」を体験することは難しく思えました。でも2023年と2024年は、共に集うことができたのは、大きな喜びでした。

ヨベルの新刊・既刊案内



好評発売中

キリスト教思想史を学ぶすべての人に、あたかも絵画を観るように理解できる例話集成！

新書判・平均304頁・各巻本体1540円

Ⅰ『物語集』〔既刊〕
Ⅱ『命題集』
Ⅲ『「共生」の神秘』
Ⅳ『愛のかたち』
Ⅴ『試練の物語』
Ⅵ『霊性の輝き』

「ヨーロッパ思想史」
金子晴勇

命題集 〔第2回配本〕

キリスト教 思想史の例話集 II

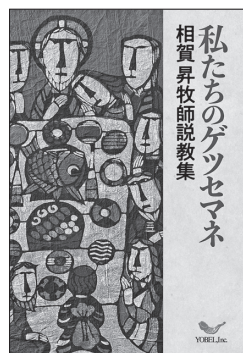
ヨベル YOBEL Inc. https://yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1 TEL03(3818)4851
info@yobel.co.jp 出版の手引き / 呈 (税込)

人は神にのみ

従わなくてはならない

〈評者〉 本多峰子



私たちのゲツセマネ

相賀昇牧師説教集

相賀 昇著



本書は横浜の田園都筑教会を創立の二〇〇四年から二十年間、主任牧師として育ててこられた相賀昇牧師の説教集です。相賀牧師の説教は、聖書の忠実な解き明かしであることにとどまらず、常に、歴史の中の教会のあり方、

教会員のあり方、キリスト教信者であるなしにかかわらず、人間としてのあり方を聖書のメッセージに照らして問い直し、生きるしるべを与えてくれます。これは、田園都筑教会着任までの十二年間、ドイツで牧会なさり、学者としても、ナチス時代ヒトラーに「否」を突きつけたボンヘッファーやカール・バルトなどについて深く研究しておられることからでしょう。わたくしは田園都筑教会で先生に導きをいただいた一人ですが、この説教集には、控えめ決して自己主張なさらないながら、深く揺らがぬ海のような信仰を固く持たれている相賀牧師の賜物が集約されている

と感じます。

相賀牧師が伝えるイエスは、弱い私たちと同じ、弱さをもった人間です。ゲツセマネの園で、イエスは不安に襲われ、もだえ苦しみました。そして、その苦しみを隠さず、共に祈ってほしいと弟子たちに言います。「他者に対してその苦しみを見せることは、他者に自分を開いてゆくことであり、ひいては神様の業にゆだねることではないかと思えます」と牧師は書いています。「私たちはイエス様さえおのかれたことを知り、慰められます」と。弟子たちも、イエスが祈っているときに眠ってしまった、逮捕されたイエスを見捨て、否認してしまう弱さを持っています。そして、イエスが彼らの弱さを赦したこと、そして私たちが弱さや恐怖に負けてしまいうようなときにこそ、私たちの唯一の救い主となってくださることを思い出させてくれます。「わ

たしたちもまた、闇がどんなに深くても神様の愛と恵みと憐みによって克服されることを信じるべきではないでしょうか。そしてわたしたちもまたゲツセマネを覆っていた闇のような暗さの中で、『立て、行こう』と招かれるイエスの後に従うべきであろうと思います。」

相賀牧師は、また、主イエスに従うとはどのようなことかも、本書の説教で語ってくれます。相賀牧師の読書量の多さと広さは教会員の知るところですが、牧師は社会的な問題意識と、苦難の中で神に結ばれて生きる人たちの声に真摯に耳を傾ける姿勢をもつて読まれた本から、大切なメッセージを私たちに伝えてくれます。ナチス・ドイツでヒトラーではなく神に従い通したために処刑されたボンヘッファーの希望と復活信仰や、彼が獄中で語った隣人愛。

人に理解されずともかまわず善い行いを続けなさいと教えるマザー・テレサの言葉。これらは、苦難の中で実際に神への信仰によって強められ、生かされ、他の人たちを生かしてきた人たちの言葉であるからこそ、私たちを強め、主にある生き方がいかなるものかを教えてくれます。信仰や教会は個人の問題にとどまらず、社会での問題でもあるとの気づきも与えてくれます。牧師は、「この世界の只中で、人と人のかかわりの中で、そして私自身のなかで、イエスは共に生きて働いておられます」と語り、教会がその確信を宣教と実践で広げてゆくことを呼びかけます。

本書は、一人で読んでも、聖書研究会で共に読んでもさっと豊かな恵みを得られる貴重な本の一冊です。

(ほんだ・みねこ 八王子栄光教会牧師・聖書学者)

(四六判・二五六頁・定価一七六〇円〃ヨベル)



福音主義教会法 と 長老制度

深谷松男
FUKAYA Matsuo



日本の福音主義教会の法について、初めて体系的にまとめた労作

民法学者である著者が、日本基督教団常議員、同信仰職制委員会委員として、また長老としての経験を踏まえ、具体的な事例に即し教会法を考察。

A5 判・上製本
定価 3,520 [本体 3,200 + 税] 円
ISBN978-4-86325-157-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

『本のひろば』2024年のバックナンバーをご紹介します。またバックナンバーはWeb上で閲覧できます。下記アドレスから「『本のひろば』バックナンバー」にアクセスしてください。

<https://honhiro.com/>

2024年1月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：キリスト教史は—国史を越えられるのか？ 吉田 亮		
日本でキリスト教の黄金時代を本気で始めるためにこの三冊！ 清涼院流水		
旧約聖書	B・W・アンダーソン著、新教出版社	月 本 昭 男
旧約聖書神学	コンラート・シュミット著、教文館	山 我 哲 雄
わたしの神学六十年	近藤勝彦著、教文館	小 泉 健
ひと時の黙想 心の貧しい人とは	ブレナン・マニング著、日本聖書協会	英 隆 一 朗
贈りもの	晴佐久昌英著、キリスト新聞社	土 肥 研 一
夕暮れに、なお光あり。	渡辺正男他共著、キリスト新聞社	三 吉 信 彦
キリスト教思想史の諸時代 別巻1	金子晴勇著、ヨベル	出 村 み や 子
原始キリスト教の「贖罪信仰」の起源と変容	大貫 隆著、ヨベル	田 中 健 三
ナウエン・セレクション 古い	H・ナウエン、W・ガフニー著、日本キリスト教団出版局	橋 谷 英 徳
教父哲学で読み解くキリスト教	土橋茂樹著、教文館	阿 部 善 彦

2024年2月号

巻頭エッセイ：父の本棚 小林よう子		
バイオエシックス／生命倫理でいのちと平和を考えるならこの三冊！ 木村利人		
シンボルで味わう典礼・礼拝	宮越俊光著、日本キリスト教団出版局	加 藤 博 道
遠藤周作 366 のことば	山根道公監修、日本キリスト教団出版局	片 柳 弘 史
新約聖書の時代	浅野淳博著、教文館	河 野 克 也
かたわらに、今、たたずんで	大野高志著、オリエンス宗教研究所	原 敬 子
神の民の解放	松本敏之著、キリスト新聞社	後 宮 敬 爾
宗教と病	川中 仁編、リトン	山 吉 智 久
聴 議長室から	大柴譲治著、リトン	窪 寺 俊 之
「日本教」の極点	西谷幸介著、ヨベル	木 村 庸 五
ウェストミンスター信仰告白講解 下巻	袴田康裕著、一麦出版社	坂 井 純 人

2024年3月号

巻頭エッセイ：偶然の出会いに導かれて 吉田 新		
ユダヤ人とイスラエル社会を知るためのこの三冊！ 勝又悦子		
『縮刷版』旧約新約 聖書大事典・『[新装復刻版] 聖書地図』(教文館) 刊行に寄せて		山 我 哲 雄
[改訂新版] 自由への指針	大嶋重徳著、教文館	牧 田 吉 和
苦悩への畏敬	下村喜八著、ヨベル	片 柳 榮 一
いのち果てるとも 申命記・下	大頭眞一著、ヨベル	西 原 智 彦
イザヤ書註解I	ジャン・カルヴァン著、新教出版社	大 西 良 嗣
牧会書簡	辻 学著、新教出版社	河 野 克 也
ハッポウ！ おばあさんだって冒険したい！	Duo Stella 共著、ヨベル	佐 藤 知 津 子

2024年4月号

巻頭エッセイ：繰り返し読んできた本 土肥研一		
「信仰と虐待」を考えるなら、この三冊！ 柳本伸良		
詩編注解(6)	アウグスティヌス著、教文館	片 柳 榮 一
ウェストミンスター小教理問答	日本キリスト改革派教会訳、一麦出版社	齋 藤 五 十 三
光と祈りの礼拝堂	田淵 論著、教文館	関 川 泰 寛
ヘンリ・ナウエン	酒井陽介著、日本キリスト教団出版局	英 隆 一 郎
こどもの神学	李 信建著、ヨベル	久 保 木 聡
百年間のカウントダウン	ジュセッペ 三木 一著、ヨベル	飯 郷 友 康
旧約聖書と環境倫理	マリ・ヨアスタッド著、教文館	関 根 清 三
アメリカ聖公会の歴史	ロバート・W・ブリチャード著、教文館	大 宮 有 博

2024年5月号

巻頭エッセイ：立ち上がり、歩き出す 家山華子		
大正期のクリスチャンの様相がわかるこの三冊！ 八木谷涼子		
保育者の祈り	望月麻生監修・著、日本キリスト教団出版局	相 澤 弘 典
悲しみに壊れた心はどこへ行くの？	W・ロス・ヘイスティングス著、ヨベル	本 多 峰 子
「良心」の天路歷程	金子晴勇著、ヨベル	斎 藤 佑 史
キリスト教の看取り・送り	関西学院大学神学部編、キリスト新聞社	吉 岡 恵 生
キリストこそわれらの平和	近藤勝彦著、教文館	佐 々 木 潤
カナダ合同教会 日本での百年	グウェン・R・P・ノルマン著、教文館	松 本 郁 子
汲めど尽させぬ泉	吉岡 繁著、一麦出版社	鶴 殿 博 喜
これから生きるあなたへ	小林よう子著、日本キリスト教団出版局	與 那 城 初 穂

2024年6月号

巻頭エッセイ：「チック」が先か、「タック」が先か 菅原裕治		
ジェンダー、性差別…モヤモヤした時に、この三冊 岡田 薫		
聖書のお話を子どもたちへ	小見のぞみ著、日本キリスト教団出版局	片 山 知 子
聖化の再発見	大頭真一と焚き火を囲む仲間たち編著、ヨベル	林 牧 人
神の子とする恵み	齋藤五十三著、教文館	丸 山 忠 孝
愛に祈る人	矢田部千佳子著、教文館	加 納 孝 代
修道院からモダニズムへ	浅野忠利著、教文館	田 淵 論
クリシタン 1622	川村信三、清水有子編、教文館	大 橋 幸 泰
われら主の僕	ICU 伝道献身者の会編、新教出版社	藤 本 満

既刊案内 (2024年12月～2025年1月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
石丸昌彦	不安と孤独の処方箋 ——病の教訓、聖書のヒント	四六	224	2,640	日本キリスト 教団出版局	12/2
宮本久雄、石井智恵美編	押田成人 遊行の巡礼者	四六	176	2,200	日本キリスト 教団出版局	12/16
上垣勝	それでも、希望に生きる ——聖書黙想 366 日	A5	336	4,400	日本キリスト 教団出版局	12/23
朝岡勝	読みつつ生き、生きつつ読む	四六	216	1,650	キリスト新聞社	12/10
シュペーナー著 山下和也訳	ドイツ敬虔主義著作集 ② シュペーナー 新しい人間 ——読みやすい言葉で	四六	400	3,080	ヨベ ル	12/11
吉田新	聖書註解 ペトロの手紙一	菊	410	8,580	一麦出版社	12/16
ボナヴェントゥラ フランシスコ会日本管区監修 小高毅編訳	キリスト教古典叢書 聖ボナヴェントゥラ著作選集	A5	668	9,680	教文館	12/18
E. P. サンダース著 浅野淳博訳	パウロとパレスチナ・ユダヤ教 ——宗教様態の比較	A5	890	12,100	教文館	12/26
日本聖書学研究所編	聖書学論集 55	A5	80	3,300	リト ン	12/23
青島忠一朗	アツカド語文法	B5	300	4,400	リト ン	1/14
関西学院大学神学部編	関西学院大学神学部ブックレット 17 明日の地域と教会	A5	122	1,760	キリスト新聞社	1/21
朝岡勝	説教の聴き方 ——語られ、聴かれ、生きら れるみことば	四六	216	1,980	教文館	1/22
佐々木哲夫編著	宮城学院に連なる人々 ——ドイツ改革派の理念の継承	A5	158	2,200	教文館	1/24
C. ヴェスターマン、 F. アーヒウス著 J. ヴェーネルト協力 吉田忍訳	聖書の基礎知識 ——新約・旧約外典篇	A5	224	4,400	日本キリスト 教団出版局	1/22
左近豊編	聖書における和解の思想	A5	352	4,400	日本キリスト 教団出版局	1/24
デイトヒ・ボンヘッファー著 宮田光雄監訳 村松恵二、本田逸夫、 小嶋大造、星野修訳	倫理 ——DBW 版新訳	四六	820	6,930	新教出版社	1/24

書店名	郵便番号	住 所	電 話	フ ァ ッ ク ス	U R L	メ ー ル	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://sendaibcs.uccj.jp/	info@sendaibcs.uccj.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館2-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待晨堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス青山	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3567-1995	03-3567-4435	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区駒込1-44-4 泉屋ビル10F（外都専門）	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkikan.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tyohga.ne.jp/~tyohga/mas/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00560-8-51419	
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須16-16 日本キリスト教団熱田区内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.coccan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-iret.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-iret.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店（聖徳社）	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkikan.co.jp	00170-2-421390
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古大道路/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.goddes.jp/matsuyama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店/ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2025年4月号

特集Ⅱ荒井献とその時代

寄稿者Ⅱ大貫隆、廣石望、上村静、賈晶淳、渡邊さゆり、小林昭博

新連載 ばやし牧師のさすらい説教録（富田正樹）
新連載 ハンス・キュンク伝（福岡揚）
好評連載 女たちの闘い（最終回）／証言としての旧約聖書（田島卓）／「日本のキリスト教」を読む（山口陽）／新約釈義 ルカ福音書（山崎ランサム和彦）／八木重吉の聖書（今高義也）他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から



身近からどんどん紙が少なくなってきました。公共料金などの請求書や諸手続きは、今やほとんどがネットで行われる昨今。わたしなどは、かえって面倒だなと思ってしまう。でも、ネットならスマホのデータ通信や電気、ガスの使用量の推移をグラフで見ることができたりするので、自分の使用状況が可視化される便利さを少しは実感しています。

それでも、紙媒体が電子書籍に押されている現実には単に好き嫌いだけではなく、危機感を覚えます。分野によっては違いがあるのですが、電子書籍には省スペースだけでなく検索機能や書き込みが繰り返しできることなど、利便性もあることは認めます。

予告

本のひろば

2025年5月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）「生きていくということには不安があるんだ」平林孝裕

（特集）「ボンヘッファーを知るならこの三冊！」小海基

（書評）石丸昌彦著『不安と孤独の処方箋』、A・E・マクグラス著『キリスト教の信じ方・伝え方』他

一方で、学習効果はどうなのだろうかという疑問があります。以前、ある国際ジャーナリストが英語の上達を伝授する本を編集担当したことがあります。それによると、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能うち最重要なのは「書く」ことだそうです。一番インプットする力に優れているからで、インプットなしにはアウトプットもできません、という説明に納得したので覚えていきます。

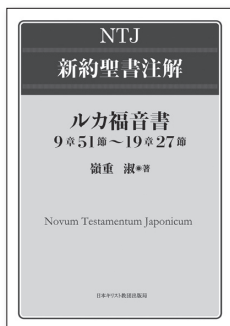
それと共鳴するかどうかわかりませんが、ある大学教授は紙の良さを見直そうと、科学的観点から紙メディアの研究をしているそうです。それによると、読みの効率はデジタルより紙のほうが高いとか。このことを知って、とてもうれしくなりました。とはいえ、その教授は双方の使い分けが大切だと主張しておられ、わたしも同感している次第です。

（市川）

NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書 9章51節～19章27節

嶺重 淑

2025年3月17日刊行予定



日本語で書き下ろす聖書注解シリーズ。エルサレムへ向かうイエスと弟子たちの旅を描く、ルカ福音書の中心部分の翻訳と詳細な注解。
◆A5判 上製・562頁・定価79200円

好評
発売中

『NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書
1章～9章50節』 嶺重 淑 定価5,720円

はじめての ヨハネ福音書

棟居 正

2025年3月24日刊行予定



難解な箇所も少なくないヨハネによる福音書を初めから終わりまで、小見出しごとに説明しつつ、じっくりと読み進めていく。
◆A5判 並製・144頁・定価2200円

好評
発売中

『はじめてのマルコ福音書』
棟居 正 定価1,650円 (在庫僅少)

聖書からの 贈り物

祝福・励まし・慰めの聖句集
丹治めぐみ／左近 豊 編

2025年3月25日刊行予定



人生の節目や過渡期、困難にある人に届けるみことばを選ぶ際に役立つ聖句集。カードや手紙にみことばを添えたいときにおすすめ。
◆四六判 並製・112頁・定価14300円

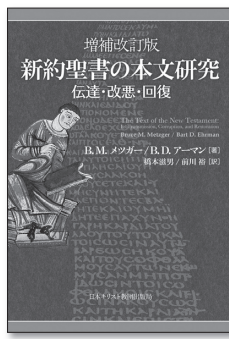
増補
改訂版

新約聖書の 本文研究

伝達・改悪・回復

B.M.メツガー／B.D.アーマン
橋本滋男／前川 裕 訳

2025年3月25日刊行予定



新約聖書の本文の元となる膨大な写本の種類や本文批評の歴史とそのなかで生じた「改悪」などを解明。原著第4版より訳出。
◆A5判 上製・448頁・定価6600円

クレド

キリスト教の伝統における
信条と信仰告白の歴史的・神学的入門

J.ペリカン

本城仰太訳

信条学研究の決定版！



『キリスト教の伝統』（全五巻、教文館）で知られる教理史家ヤロスラフ・ペリカンの後期の代表作。古代から現代までの信条と信仰告白の歴史的・神学的研究。

● A5判・784頁・定価9,460円

第1巻 公同的伝統の出現（100—600年）

第2巻 東方キリスト教世界の精神（600—1700年）

第3巻 中世神学の成長（600—1300年）

第4巻 教会と教義の改革（1300—1700年）

第5巻 キリスト教教理と近代文化（1700年以降）

J.ペリカン著 鈴木 浩訳 キリスト教の伝統 教理発展の歴史

● A5判・784頁・定価9,460円

日本の教育政策とキリスト教学校

森島 豊／伊藤 悟編 愛国教育と人格教育の攻防

現代教育に潜む「国体思想」にいかに対抗するか？



「教育勅語」から「道徳の教科化」まで、戦前戦後を通じて日本の教育に徹底する国家主義を退け、キリスト教に基づく教育の自由と価値をいかに確立するかを論じる。

● 四六判・280頁・定価2,970円

森島 豊

抵抗権と人権の思想史 欧米型と天皇型の攻防

● A5判・480頁・定価3,300円

好評既刊！

遠藤周作の生涯と文学

兼子盾夫

神学と文学の
接点から見る

● A5判・500頁・定価3,960円



「キリスト教作家・遠藤周作の真髓に迫るための必読書」——山根道公氏推薦！
『沈黙』『深い河』『おバカさん』……多彩な遠藤文学に共通する宗教性を象徴と
隠喩の観点から読み解き、作品の重層構造を分析した画期的な論文18本を収録。

3月の新刊 ●価格表示は税込

山根道公氏推薦！
（ノートルダム清心女子大学教授）

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549（出版部直通）《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は（e-shop 教文館）
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



本のひろば.com



本ひろば
一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二五年四月一日発行（毎月一回一日発行）
本ひろば 第八〇八号 二〇二五年四月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口一四四一四 一般財団法人キリスト教文書センター
電話 〇三・三三六〇一六五二〇 振替 〇一七〇五一 一六七九
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話 〇三・三三六〇一五六七〇

定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
一年分 二二〇〇円（送料共）